

国際ロータリー第2500地区第6分區

# 帯広東ロータリークラブ会報



Be A gift to the world

2015-2016年度  
帯広東ロータリークラブ

会 長 上野 敏郎  
幹 事 加藤 昭治  
メディア委員長 西田 重人

「連：つらなる」

## 第1490回例会

平成27年10月6日(火) 於 ホテル日航ノースランド帯広

■創 立：1984年6月15日 ■認 証：1984年6月18日 ■例 会：毎週火曜日 12:30～13:30  
■事務局：帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会 場：ホテル日航ノースランド帯広



2015-2016年度  
国際ロータリーテーマ

## 【世界へのプレゼントになろう】

2015-2016年度国際ロータリー会長  
K.R. ラビンドラン

ガバナーテーマ

## 【もっとロータリーを楽しみましょう】

国際ロータリー第2500地区 ガバナー  
東 堂 明

- ◎起 立 板倉利男 S A A
- ◎友情の握手 板倉利男 S A A
- ◎点 鐘 上野敏郎 会 長
- ◎開会宣言 板倉利男 S A A
- ◎国家斉唱 板倉利男 S A A

### ロータリーソング

四つのテスト

### 10月に結婚記念日を迎える会員 加藤武志 親睦委員長

- 金尾 浩幸 会員  
昭和41年10月16日
- 上野 敏郎 会員  
昭和46年10月10日
- 古川 直也 会員  
昭和52年10月15日



- ◎乾 杯 板倉利男 会員
- ◎会 食

### 会長挨拶 上野敏郎 会長

皆さんには、さっそく「赤い羽根募金活動」や「交通安全運動」にご協力をいただきありがとうございます。  
さて、R Iは、今月を「経済と地域社会の発展月間」と「米山月間」としています。  
2010年発行の「ロータリー情報マニュアル」を見ますと、

10月は「職業奉仕月間」と「米山月間」になっています。「経済と地域社会の発展月間」は新たに、2014年のR I理事会で決定されたものと考えていますが、その意図はどこにあったのかということでありませう。



資料の説明によれば、貧困地域の経済発展を目的として、事業を起こす人でありませんが、起業家や、地域社会のリーダー、地元の団体を含みますが、地域社会の貧困を削減し、経済の面から地域社会を発展させようとする仕事に就こうとする専門職業人を、奨学金を持って応援しようとする狙いがあるようです。

しかしながら、では、現在の帯広東ロータリークラブが、具体的にどのような事ができるかについては、まだ検討する環境は整っていないと言わざるを得ません。

帯広東ロータリークラブとしては、R I、あるいは2500地区の具体的な動向を見守りながら、貧困問題への関心を一人ひとりがロータリアンとして強めていくことが今求められていると考えます。

さて、もう一つお話ししたいと思います。

7月に今年度がスタートしたばかりですが、高田年度の次の年度、次年度の会長を選ぶ時期に入っています。大事な案件でありますので、慎重に進めてまいりますが、我こそはとご決意いただいた方は大歓迎でございます。私にご一報いただければ幸いです。

よろしくお願い致します。

### 会務報告 加藤昭治 幹事

#### ◎帯広東R C、夜間移動例会開催のご案内

日時 平成27年10月20日(火)  
午後6時30分  
場所 幕別パークホテル悠湯館

#### ◎出席優秀会員表彰

30年 神田 光則 会員



庄内 忠道 会員  
25年 泉 吉太郎 会員  
20年 齊藤 蓮輝 会員  
高田 進 会員  
15年 吉村 学 会員

## 委員会報告

米山記念奨学委員会 大塚 正昭 委員長

今月は米山月間になっています。皆様方には、今年度の豆辞典をお配り致しました。毎年この月間の時に寄付のお願いをすることで、この後、ご案内文書を出させて頂く事を先にお知らせします。皆様方に、ご協力をお願いしたいと思います。



## ニコニコ献金

親睦活動委員会 池田 誠 副委員長

- **上野会長** 私の生まれた故郷山形の10月は、恒例の“いも煮会”シーズンです。先週の日曜日、十勝に住む県人が30人集まり、お喰い初めをやりました。今週の土曜日は第2弾です。うまいですよ。
- **高橋副会長** 先週は当組合の職員3名出席しお世話になりありがとうございました。
- **加藤幹事** 交通安全の運動と赤い羽根の募金に多くの会員の参加をいただきありがとうございました。
- **福岡会員** シベリア抑留の卓話をさせていただきます。
- **板倉会員** 今月3日よりモンゴルからショートステイで留学生を受け入れました。
- **神田会員** たまにはニコニコします。
- **加藤雄樹会員** 交通安全の旗振り、ご苦労様でした。前を通り失礼しました。
- **古川直也会員** 結婚記念日のお祝いをありがとうございました。



## 出席報告

出席委員会 相澤和彦 委員長

10月6日(火) 第1490回例会  
ホームクラブ出席者数 24名

## プログラム

会員増強・ロータリー情報委員会 齊藤 蓮輝 委員長

## 【シベリア抑留の体験】

福岡 正雄 会員

昭和20年7月1日私に召集令状が来て、間島省延吉に集合しました。私は選ばれて吉林省敦化139師団司令部

に配属され、副官部付きとなりました。師団司令部に配属になって、当時の差し迫った状況が見れる立場に有ったので、敗戦からシベリアに至る有様を御覧頂きたいと思います。

当時私達全員に帯剣や銃が当たらず外出の時、回し使いして居た。内地から来た兵隊の剣は木で有ったように思います。飛行場に有る飛行機は木製で敵の目を欺く模型でした。戦局も益々押し迫り最後の様相を呈していた。

司令部を天然の要害である鏡泊湖の西側に設置する事になり、高級副官の山田少佐を先遣隊として、我々が現地に派遣された。その晩は開拓団から、熱烈な歓迎を受けました。席上山田隊長は「皆さんの背後に百万の関東軍が付いているので安心して下さい」と挨拶した。

翌朝早く師団より連絡将校が来て終戦を知った。山田隊長は昨夜と打って変わって、慌てふためき兵隊は即時乗車せよボヤボヤして居る者は置いて行くぞと怒鳴った。

我々兵隊は昨夜から荷物を下ろさずに有ったトラックの荷物の上に乗り込んだ。兵隊さん連れて行ってと泣きながらトラックに取り縋る、女や子供を振り払って出発した。取り縋った女や子供は一人落ち二人落ちて行った。昨夜の事を考えると、女や子供の姿はやり切れない思いがした。

我々は敦化に逃げ帰った、後味の悪さを思う日々が続きました。ある日師団長室の前庭に八垂基天幕を張れと指示され、まだ張り終わらぬうちに、ソ連の軍使が白旗を立てた大きな戦車で轟音を立てて入ってきた。そして私の目の前で師団長以下日本側とソ連の軍使と会見ビールで乾杯、師団長の冷静沈着な態度とロシア語の堪能さには驚かされた。それに引き替え山田少佐は只おろおろして、欲しい物があれば手当たり次第ひたたくソ連兵に眼鏡を取られて、ベソをかいて閣下に訴えたが「捕虜とはそういうものだ、欲しがる物はやりなさい」と言われた。又我々に対しても閣下は「軽挙妄動を慎んで皆揃って無事に帰還するように」と何回も訓示された。閣下と兵隊上がりの山田少佐との対照的な姿が今も目に浮かぶ。

その後将校と兵下士官に分けられ、悌団を組織し敦化から峠を越えて牡丹江まで15日も掛って行軍しました。私は開拓団の経験から糧秣輸送の馬車隊に入りました、ウラジオ東京ダモイに騙されて各人衣類や食料を、どっさり背負って歩き出したが、2日目位から足が痛んで一つ二つと投げて行く。私はそれを一つ一つ拾って馬車に積んで行き、国境方面から老人や婦女子がボロボロの衣服を纏い食料も無く、婦人は坊主頭になって顔に墨を塗り、子供は南京袋の腰蓑をして裸同然で国境方面から避



難してくる、私はその人達に拾い集めた物を与えて歩き続けました。

登山道路のような険しい道路を登りやっとう東京城方面に下る事が出来ました。東京城から牡丹江に至る地域は、ソ連との激戦地です。この道路端を通ったのは10月に入ってからだと思いますが、激戦の跡は生々しくその儘に放置されていました。道路端には玩具のような日本軍の戦車や砲、馬の死骸があお向けの儘に寄せてあります。電柱は殆ど倒され、橋は全部落とされ浮き橋になっていました。道路脇の芦の藪の中に、日本兵が重なり合って死んでいました。日本の戦車は5トン位なのに、ソ連の戦車は50トンもあります。

牡丹江の街は戦火にやられ見る影も無く、牡丹江大橋も落され、ソ連の掛けた浮き橋を渡りました。浮き橋を渡った地域は「エキカ」と言います。

ここは以前の招集で教育を受けた満州第414部隊が有りました。その廃墟になった兵舎に入りました。ソ連側の情報では休養整理して「ウラジオ東京ダモイ」だと言う。

廃墟だから水道も止まり食事も自分で作る。水が無いからマンホールの中の染み出た水を使いました。東京に帰ると言うから、染み出た水に何が入って居るか分らないが、必死の思いでやりました。

数日して貨車を2段にした列車が入り、それに乗り込みました。エキカを出て数日が立ちました。ウラジオ迄はそんなに遠くないのになかなか着きません。戦友がソ連は秘密の国だから、真っ直ぐウラジオに行かないだろうと言う。数日して海が見えた。いよいよウラジオだと大喜びした。ウラジオと反対方向に有るバイカル湖だと分り落胆した。

列車は何処をどう走って何処に行くかも知らされない。タイセットからバーム鉄道に入ったようだ。先々何を考えても仕様がなくて覚悟を決めた。列車が止まり我々は下ろされた。そこはネーブルスカヤでありバーム鉄道の60数キロ地点でした。飯を炊いて食えと指示があり、飯盒で炊いて食った。

シベリアの日暮れは早く、もう真っ暗です。気温も零下20度を下回り捕虜の服装では、寒さがピリピリと肌を刺す。飯を食えと言うから食った。立って居ると震えが来る程の寒さだ。

午後の9時を過ぎた頃だったと思う。集合が掛り歩き出したが我々は何処に行くかも分かって居ない。列の中で無意識に歩いて居た。道は鉄道建設の資材を運搬する割り板を敷いたトラック道路。足に馴染まないの歩きずらい足元がフラフラするようになって感じた。その内に疲れた兵隊は、道路の縁に腰を下ろし休む者が出てくる。ソ連の兵隊に銃の床尾板(銃座に貼られた鉄板)で殴られるが、体力の弱い者はヘタヘタと座り込んでしまう。その人達は座ると直ぐ眠ってしまう、眠るとその儘凍死してしまうのである。ソ連兵に見つかり叩き起こされた人もラーゲルに入って、その日に死んだ人も居ました。

我々は夜通しに40数キロ歩いて105キロのラーゲルに到着しました。もう夜が明け日が高く昇って居ました。

そこで身体検査を受け貴重な記録や大事な物を全部取り上げ燃やされてしまいました。入れられた宿舎は内側に断熱材ははって有りますが、幕舎でドラム管を横にしたストーブがあります。トイレは外で深い溝を掘って丸太を何列かに横に並べその上に並んでするようになっていました。零下何十度になってよくお尻が凍傷にならなかったものだと思います。

飯上げや拭き掃除、暖房の火をたく全て我々下級兵の勤めでした。将校、下士官は寝台の上部に座し、我々下級兵の行動を監視して居ました。

この一年間位は正月の元旦に朝暗い内に起きて宮城揺拝したり軍隊時代その儘の流れでした。

反軍闘争はスターリンの共産党政権樹立の思想が後押しして、反軍の吊り上げが高まりました。班内では私達下級兵の間では、強力的に親密度が深まりました。

私の作業は枕木伐採となりました。不慣れな人は苦労したようですが、私は貧乏百姓の倅で出稼ぎで伐採等をして居たので、ハラショーラポーター(「よく働く人」の意。優秀な労働者を指す)に成りました。

煙草を吞まなくても配給になります。戦友が僅かの配給のパンを持って交換してくれと言います。配給のパンを食べても腹が減るのに、私は煙草を吞まないのパンは要らないと言いました。

ある時栄養失調で鳥目になって居る戦友が、俺芋を拾ってきたからお前に食わせるよ。と言ってペーチカの焚き口で煮た。煮えた頃飯盒の中に芋らしいものはない。彼はしばれてコロコロに成った馬の糞を芋と間違えたらしい。そんな心温まる戦友の心を身近にもらい合えるように成りました。

本当に腹が減ったら何でも食べられます。蛇、蛙、鼠、犬と食べました。私には猫だけはどうしても食べられませんでした。

ソ連の人達の馬が死ぬと地面が凍結しているので、雪の中に埋めます。捕虜が肉を取って食べます。私も取りに行ったらもう肉は有りません。骨を割って髓を取って、戦友と煮て食べました。冬の寒い時期にラーゲルから脱走した二人が、寒さは厳しいし食べ物はない。一人が餓死してしまいました。その戦友の肉を食べて生き延びたと言う話を聞きました。あの寒さの中で食べ物も無く生き延びられない事は決まっている。無謀な事をしたもんだと思いますが、妻や子の顔が見たくて耐えきれ無かったのでしょうか。

私はハラショーラポーターに成って、ソ連側では私の生い立ちが貧乏百姓で有る事から共産党にしようと思ったらしい。共産党は労働者農民と言うけれど、農民には地主や金持ちが居て全部適するとは言えない。

私は貧農で階級的には合う。それで共産党の学校に行けと言われた。私は反対も出来ず行く事になりました。

大阪商大の経済史の教授が校長でした。そこで本質を掴めカードル「基幹分子」骨組みの人材を育てよでした。それが今日の経営に役立って居ます。

## ラーゲルの日常生活

毎日の夢は腹一杯食べる事です。寝て見る夢は、大皿にぼた餅が山盛りになっています。取って口に入れようとしたら目が覚めてしまいます。夢でも良いから腹一杯食べたいが、食べさせてくれません。

私の隣に寝ている九州の宮崎から来た戦友は、福岡おい共の宮崎には旨い「だご」がある。帰ったら九州に会い、だごを食べさせると言ってくれました。後程九州に旅行して、駅の売店で「だご」を見つけて味わってみました。戦友の素朴な味を噛み締め、奥深い味に万感胸に迫りました。

共産党の学校では、講義内容に興味があったので、一生懸命勉強させてもらった。

卒業の時、校長から学校に残って講師をやらないかと言われました。それは私が優秀だからではなく、出身階級が貧農で共産党に向くからだ同期には東大、京大、士官学校と中等学校が一人、小学校しか出て居ないのは私一人だった。講師には向いてない事が分かって居たので辞退しました。そして前に居た105キロのラーゲルから200数10キロ奥のラーゲルに移動しました。この学校を出た者は他のラーゲルに出ると、共産党の宣伝活動の委員長にさせられる。私もやらぬ訳にも行かず勉強しながらやらせて貰いました。このラーゲルに来てから、1年以上がたちました。昭和24年6月頃だったと思います、ラーゲルの門を閉めてナホトカに向かいました。

ラーゲルの門を閉めても、本当に帰れるのかと信じ切れないで居ました。ナホトカに着いてストップが掛り、居なくなった人も居るし自分にも何時ストップが掛るか信じきれないで居ました。8月に入ってやっと貨物船の船底に乗り込みました、船中では反軍闘争の騒ぎなど記憶にありません。船底だったから、聞こえてこなかったのかも知れませんが、今なら飛行機で2時間も掛らないと思いますが、あの時は4日掛かったと思います。

何はともあれ無事、舞鶴に上陸しました。舞鶴で私を待ち受けて居たのは、アメリカのGHQでした。きっと誰かが私がシベリアで共産党の学校に行き、ラーゲルで宣伝活動をしていた事を密告されて居たものと思います。私を呼び付けて朝方まで取り調べられました。最後によく分かりました。貴方は悪質な事が出来る人ではないご苦労様でした。取り調べでなく、情報収集だったようである。でも私はアメリカ嫌いになって、アメリカ旅行に行かなかった。何十年かしてアメリカに行きました、アメリカの人達は心が暖かく私達を持ってなしてくれました。

私の心は変わりました。シベリアから舞鶴に上陸した我々の仲間、東京に出て共産党本部前に行き、共産党万歳を叫ぶ人が随分居た。私は舞鶴の入国管理所に雄武

の姪からの手紙で、満州に居た母や兄弟が浦幌村に引き上げている事を知りました。私は理由無しに母や兄弟に会いたいと思って、真っ直ぐ北海道に帰りました。母や兄弟達に会うと魂が抜けた様になって、暫く弟の家で居候をして居ました。

私には百姓しかやる自信が無かったが、回りの人は畑も馬も持たない者が百姓が出来るかと陰口が聞こえてきた。帯広土木現業所の河川係長をして居た叔父が、遊んで居ても仕様がな現場に来て小遣いを稼げ。と言って、川西治水事業所の土方に雇って貰った。その時、チョット身体弱く農家以外ならと言って来てくれたのが家内です。その後私は、役所の職員にして頂きました。それから私は一族の中心になって、母と末弟の面倒を見る事になりました。末弟を大学にやる時には、私の給料ではやって行けず、家内が飯炊きや農家の出面取りをして家事を支えてくれました。そのお陰で末弟を室蘭工業大学を出せし、母の葬式も人並みに出す事が出来ました。現在86歳になって、私に飯を炊いて食わしてくれます。家内の役割は、一族の和を作った。

私がシベリアの抑留生活で、同僚の皆さんより少し余裕があったように思う。

①私は北海道育ちで寒さに慣れている

②貧乏百姓の倅で夏は百姓の合間に出面取り冬は出稼ぎで荒仕事

③私はチョンガで家族の事に心配しなかった家族のある人は夜も昼も心配して、精神的に追い詰められた

◎以上3つの条件は腹が減って食べたい夢ばかり見たが、過酷な条件を比較的楽な気持ちで乗り越える事が出来た。

私は大坂商大の経済史の先生が校長の、共産党の学校に行く事になりました。そこで物事の本質に就いて学びました。その次に共産党の政権を樹立するには一人では出来ない、骨組みになる人材(カードル日本語に直訳すると基幹分子)を育てる事と学びました。

日本人は見栄を張ります、少しお金が入ると借金して豪華な社屋を建てます。次に自宅を豪華なものにします。

それが出来ると他の女性に手を付けます。それで大失敗をしてしまいます。経営者は自分本位の考えをしてはなりません。第一に本質を弁え社員を育てる事です。

◎点 鐘 上野 敏郎 会長

## 次週プログラム

職業奉仕委員会

10月13日(火) 「会員卓話」(職業奉仕委員会)  
加藤 雄樹 会員